



【文化ゾーン見える化通信 Vol.3】

みんなどう過ごしたい？

これからの図書館・公民館を考える 体験Dayを開催しました

Voice NAGAOKAKYO に寄せられた声を
踏まえ、これからの図書館・公民館のあり方
を体験的に考えるイベントを2026年8月1日
(土)に図書館3階で実施しました。

第1部 トークイベント

この日のゲストは、全国でリノベーションまちづくりを手がける水上幸子さん、と、茨木市文化・子育て複合施設おにクルの担当職員・向田明弘さんのお二人です。「小さく試して大きく育てる——私たちとまちの新しい関係」をテーマにお話しいただきました。

「街の魅力は、そこにいる人の魅力に尽きます。好きなこと、大事にしていること、皆さんが隠し持っているものが、まちを豊かにする一番の力です」と水上さん。一人の小さな取組が広がり、まち全体の魅力につながった事例も紹介され、「まず小さく試しながら育てていくこと」の大切さを学びました。

おにクルの整備にあたった向田さんのお話からは、建物を整備することが目的ではなく、市民とともに施設を育て続ける大切さを教えていただきました。



第2部 体験タイム

講演会のあとは、大会議室と講座室の2つのスペースを使って体験タイムを実施しました。Voice NAGAOKAKYO に寄せられた「おしゃべりできる場所がほしい」「ゲームや遊びを楽しめる場所があれば」という声を、実際に試してみた2時間です。

大会議室では、八条ヶ池と長岡天満宮の緑を望みながら、参加者とゲストが輪になっておしゃべりを楽しみました。「図書館でこんなふうにおしゃべりできるとは思っていなかった」そんな声が聞かれました。

講座室では、近畿大学専任講師の井上奈智さんの進行のもと、カードゲーム、レトロゲーム、投扇興（とうせんきょう）の3つのエリアを設けました。ゲームを通して初対面同士でも自然と笑顔や

会話が生まれ、子どもから大人まで世代を超えて交流する姿が見られました。景色を眺めながら過ごす人、ゲームを楽しむ人、ゲストと話し込む人——異なる過ごし方をしている人、お互いを尊重しながら同じ空間で自然に過ごす様子が見られました。「何かをしなければいけない場」ではなく、「ただそこにいてよい場」があることで、多様な過ごし方が同じ空間の中で共存できる可能性を確認できた1日でした。



今回の体験Dayでいただいたご意見やイベントを通じて見えてきたことを整理・分析し、文化ゾーンリノベーション基本計画の検討へ反映していきます。



Voice NAGAOKAKYOのブログで
イベント当日の様子を詳しく紹介
しています。ぜひご覧ください。